

令和4年度第3回 伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

- 開催日時 令和5年3月27日(月)午後2時00分～午後4時13分
開催場所 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4階 大会議室
出席委員 鶴沼 憲晴委員、小林 初美委員、清原もゝ代委員、小野田 弥生委員、
松村 まち子委員、加藤 好美栄委員、三川 隆委員、泰道 詞子委員、
中居 美幸委員、秋山 則子委員、前島 賢委員、立松 浩明委員
欠席委員 角谷 克己委員、植村 法文委員
事務局 伊勢市：健康福祉部江原部長、辻村次長(福祉総務課長)、
小林参事(福祉生活相談センター長)、岩佐参事(子育て応援課長)、
健康課浦田課長、高齢・障がい福祉課奥野課長、生活支援課濱口課長、
保育課堀川課長、介護保険課森本課長、市民交流課木村課長
福祉生活相談センター田代係長、小川係長、中村係長、服部係長、
谷本、竹内
伊勢市社会福祉協議会：前村局長、中森課長、竹澤副参事、藤原係長、橋爪係長、
小山主査、野中センター長
傍聴者 なし

1. 委員長あいさつ

2. 令和4年度の振り返り及び令和5年度の取組方針について

「地域福祉計画進捗管理シート」「地域福祉活動計画進捗管理シート」に沿って伊勢市及び伊勢市社会福祉協議会より説明。

【委員からの主な意見等】

○市民後見人や、ひきこもりサポーターなどの養成講座を実施し、養成した人と、必要としている人とのマッチングはどのように行っているのか？研修して終わりではなく、活動につなげるシステムにしていただきたい。

(事務局回答) 市民後見人の場合、令和3年度は6名受講されたうちの2名が登録、令和4年度は10名受講で6名登録していただいた。登録された方には、社協の法人後見などの活動を経験した後に、市民後見人として活動していただきたいと考えている。ひきこもりサポーターの場合は、修了された方の約8割が活動につながっている。フリースペースの運営などで協力いただいている。

○不足している分野の担い手育成とあるが、不足している分野とはどういったことをさしているのか。

(事務局回答) 現在活動している団体から担い手の高齢化等により活動の継続が難しくなっている状況や、新たに活動を立ち上げようとしている地域から担い手について相談を受けている。

それに対して必要な講座を開催し、担い手を養成してきたところである。来年度も継続して支援していきたい。

○就労支援の対象を障がい者から働きづらさを抱えた人に広げるとのことであるが、働きづらさを抱えた人とはどのような方を想定しているのか。

(事務局回答) 障がいのある方、障がいの疑いのある方、病気などで配慮の必要な方、介護、子育てなどで時間に制約ある方などを想定している。

○障がい者サポーター養成講座をWebで開催したとのことであるが、演習については現場での体験があるのか。

(事務局回答) これまで会場で行っていた講座をWeb対応にし、障がいの特性について理解していただくよう検討している。サポーター養成講座では演習は行っていないが、サポーター登録をした方に対しては、事業や催しなどの案内をし、現場でサポートをしていただいている。より多くの機会を設け、案内していきたい。

○23のまちづくり協議会の情報交換会を行ったとのことであるが、平時はどのような連携をしているのか。

(事務局回答) 各まちづくり協議会が設けている委員会において、地域の事業所や伊勢市社会福祉協議会などと連携している。

○災害時の避難に対する意識に地域格差があるように思う。

(事務局回答) 高齢者、障がい者、避難に配慮の必要な方への対応について地域に働きかけていきたい。

○認知症サポーター養成講座は受講したが、認知症の方をどのように支えたらいいのか悩む。

(事務局回答) 認知症サポーターは、地域で見守っていただく方、温かく対応していただく方を増やすことを目的としている。ステップアップとして、地域全体で支援していく「チームオレンジ」を行っている。対応や支援については、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員、初期集中支援チーム等に繋いでいただきたい。

○他市では認知症カフェが開催されていると聞いた。伊勢市ではあるのか。

(事務局回答) 伊勢市でも4か所開催している。今年度は、認知症の方が買い物をしている間、介護をしている家族が交流する「スローショッピング」も始めた。

○達成状況の評価のABCの判断結果にばらつきがある。

(事務局回答) 基準を設け、統一した評価を行うよう改善する。

○担い手の高齢化など問題提起があったが、日々新たなボランティア活動が生まれている。それぞれ自分にあった活動を見つけ立ち上げている。市や社協には地域が動きやすい体制づくりで支援していただきたい。

(事務局回答) ここ数か月、地域では活動が再開しつつある。コロナで中止されたことで、地域活動がいかに大切か認識された面もある。新しい活動も支援していきたい。

○支援が必要としている人は、なかなか声をあげられない。周りの方からの情報で分かることもあり、地域の方に認知症への理解が深まることは頼もしい。仕事と介護の両立で悩んでいる人もいる。地域の方で支えていただきたい。

(事務局回答) 声をあげられない方については、地域からの情報がきっかけになることも多く、関係機関との連携を密にしていきたい。それとともに、こちらから声を拾いに地域へ出向いていくよう努めたい。介護離職の問題については、孤独・孤立対策事業での対応のほか、地域包括支援センターでも相談に応じていきたい。

○コロナ禍で地域活動が止まってしまった。再開している地域、新たに立ち上げる地域もあるが、止まったままの地域もあり、地域格差があるように思う。

(事務局回答) コロナ禍での活動は判断が難しかったと理解している。今後、自治会活動等も活発になってくると思われる。

○コロナでは、生活弱者にシワ寄せがきた。次に災害など何か起こった時に対応できる仕組みを作っていただきたい。

(事務局回答) 事業所における業務継続計画の策定が義務化されている。経験したことを活かしていきたい。

○保育園では子育て支援の役割を担っており、園が行う地域活動を地域に知っていただくことが支援のマッチングに繋がると感じている。スタッフの人材確保も課題である。

(事務局回答) 地域活動を広く知っていただく支援を引き続き行っていきたい。人材不足については、全国的な課題であるが、公私立ともに考えていきたい。

3. その他

(1) 健康福祉ステーションの開業について事務局より説明

(2) 次回の会議開催について

次回会議は、令和5年6月の予定。詳細は決まり次第、ご連絡申し上げます。